

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2019年11月11日
【四半期会計期間】	第20期第3四半期（自 2019年7月1日 至 2019年9月30日）
【会社名】	株式会社フォーサイド
【英訳名】	Forside Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役 根津 孝規
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋室町三丁目3番1号
【電話番号】	03(6262)1056
【事務連絡者氏名】	常務取締役 飯田 潔
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋室町三丁目3番1号
【電話番号】	03(6262)1056
【事務連絡者氏名】	常務取締役 飯田 潔
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

(注) 第1四半期連結会計期間より、日付の表示を和暦から西暦に変更しています。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第19期 第3四半期連結 累計期間	第20期 第3四半期連結 累計期間	第19期
会計期間	自2018年1月1日 至2018年9月30日	自2019年1月1日 至2019年9月30日	自2018年1月1日 至2018年12月31日
営業収益 (千円)	2,858,345	3,017,125	3,920,839
経常利益又は経常損失 () (千円)	150,783	1,299	201,500
親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失 () (千円)	464,008	130,631	592,807
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	490,287	277,362	674,811
純資産額 (千円)	2,082,618	1,051,757	1,898,024
総資産額 (千円)	3,963,782	3,213,338	3,992,963
1株当たり四半期(当期)純損失 () (円)	15.04	4.16	19.13
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	47.3	31.9	42.6

回次	第19期 第3四半期連結 会計期間	第20期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2018年7月1日 至2018年9月30日	自2019年7月1日 至2019年9月30日
1株当たり四半期純損失 () (円)	11.22	0.61

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載していません。
3. 営業収益には消費税等は含まれておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、一部のセグメントにおいて、次のとおり主要な関係会社の異動がありました。

<マスターライセンス事業>

当第3四半期連結会計期間において、株式会社マーベラスアーク及びフォーサイドメディア株式会社を新規設立し、連結子会社としております。

また、フォーサイドメディア株式会社については、2019年7月5日付で株式会社FMに社名変更をしております。

<ブライズ事業>

当第3四半期連結会計期間において、当社連結孫会社である布雷克有限公司が布雷克商貿(昆山)有限公司を新規設立し、連結子会社としております。

なお、第1四半期連結会計期間及び第2四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、個人消費の持ち直しや企業収益の改善が続き、緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、米中の貿易摩擦を巡る緊張が世界経済に与える影響や今後の中国経済の先行懸念にぐわえ、金融資本市場の変動の影響等により、先行きは一段と不透明な状態が続いております。

当社グループの事業領域であるプライズゲーム市場におきましては、緩やかな復調傾向が続く中、消費増税による価格転嫁が難しく、店舗運営事業者への影響が懸念されております。住宅市場におきましては、2019年9月の住宅着工戸数が前年同月比4.9%の減少となり、前年同月比で3ヶ月連続の減少となりました。また、貸家着工戸数においても、前年同月比で13ヶ月連続の減少となり、引き続き、今後の動向を注視していく必要がございます。

このような経済状況の中、当社グループは前連結会計年度において成長が見込めない不採算事業を全て整理し、かつ、それらにかかる固定資産の減損処理を実施し、経営成績にかかるマイナス要因を極限にまで減らしております。その上で、主力事業であるプライズ事業、不動産関連事業、投資銀行事業の3つの事業を柱に据え、経営基盤の強化と継続的な収益の拡大に向けた取り組みを行っております。

当第3四半期連結累計期間の当社グループの経営成績は、プライズ事業、不動産関連事業がグループ全体を牽引し、受注件数及び新規獲得件数が堅調に推移したこと等により、営業収益は3,017,125千円（前年同期比5.6%増）となりました。利益面については、投資銀行事業の案件成約件数が増加したことにより利益を押し上げましたが、グループ全体での営業活動拡大に伴う人件費や支払手数料等が増加したこと等により、営業損失は20,765千円（前年同期は営業損失166,566千円）となりましたが、保険解約返戻金等の営業外収益の増加により、経常利益は1,299千円（前年同期は経常損失150,783千円）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は、一過性の費用として法人税等調整額245,825千円を第1四半期連結会計期間より計上したこと等により、130,631千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失464,008千円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間及び第2四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しており、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

プライズ事業

プライズ事業につきましては、主に株式会社ブレイクがクレーンゲーム機等のプライズゲーム用景品の企画・製作・販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、受注件数の伸長により売上高は堅調に推移いたしました。また、利益率の高い商品の販売構成比が増加したこと等により、セグメント利益を大きく引き上げることとなりました。

以上の結果、売上高は1,693,522千円（前年同期比3.8%増）、セグメント利益は147,192千円（前年同期比26.6%増）となりました。

不動産関連事業

不動産関連事業につきましては、主に日本賃貸住宅保証機構株式会社が家賃保証業務及び物件管理業務を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、首都圏、近畿圏における事業領域の拡大に注力し、新規獲得件数及び保証債務残高は好調に推移しております。一方で、新規契約件数増加に伴う貸倒引当金繰入額及び貸倒損失の計上に加え、のれんの償却等が影響し、セグメント利益の確保には至りませんでした。

以上の結果、売上高は949,879千円（前年同期比11.3%増）、セグメント損失は10,163千円（前年同期はセグメント損失4,035千円）となりました。

投資銀行事業

投資銀行事業においては、主にフォーサイドフィナンシャルサービス株式会社がM&Aのアドバイザー業務を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、第2四半期までに案件の成約件数が集中したことによる反動減の影響を受けましたが、売上高及びセグメント利益ともに堅調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は84,300千円（前年同期比495.1%増）、セグメント利益は17,377千円（前年同期はセグメント損失45,274千円）となりました。

コンテンツ事業

コンテンツ事業においては、株式会社モビぶっくが主に電子書籍配信サイト「モビぶっく」の運営を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、電子書籍配信サイト「モビぶっく」の売上高は堅調に推移し、費用対効果を重視したプロモーション施策により広告宣伝費が減少したこと等により、利益を確保しております。一方で、auスマートパス向けアプリ配信事業においては、分配金の大幅な見直しに伴い収益基盤の再構築に努めましたが、売上高は大幅に減少いたしました。

以上の結果、売上高は131,685千円（前年同期比16.6%減）、セグメント利益は15,775千円（前年同期比24.5%減）となりました。

イベント事業

イベント事業においては、株式会社ブレイクが各地の大型商業施設等の催事場にて著名なコンテンツの展示販売を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、多くの催事・イベントにおいて商品を販売することができましたが、来場者一人当たりの購入金額が当初想定を上回ることができず、セグメント利益の確保には至りませんでした。

以上の結果、売上高は111,645千円（前年同期比17.9%減）、セグメント損失は12,374千円（前年同期はセグメント利益2,831千円）となりました。

マスターライセンス事業

マスターライセンス事業においては、株式会社FM及び株式会社マーベラスアークが主に音楽関連事業を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、新設した株式会社マーベラスアークに所属するタレントを中心に、ライブ活動・音楽配信・関連グッズ販売を積極的に行い、音楽関連事業としての売上高は大幅に増加し、業績改善を推し進めておりますが、利益を確保するには至りませんでした。

なお、オリジナルグッズ受注生産販売通販サイト「宝祭堂」は、2019年6月30日をもって全業務を終了し、本事業から完全撤退しております。なお、事業撤退により発生する費用は、すでに前連結会計年度において事業整理損を計上しており、本年度に与える影響はございません。

以上の結果、売上高は24,908千円（前年同期比16.8%減）、セグメント損失は52,334千円（前年同期はセグメント損失54,570千円）となりました。

フィンテック関連事業

フィンテック関連事業においては、フォーサイドフィナンシャルサービス株式会社がマイニング及び仮想通貨の管理を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、マイニングの再稼働を予定しておりましたが、再稼働準備期間中に、ハッシュレートが大幅に上昇し、仮想通貨の価格も下落傾向にあったこと等を総合的に勘案した結果、再稼働を中止することいたしました。

以上の結果、売上高は17,464千円（前年同期比50.3%減）、セグメント利益は17,350千円（前年同期はセグメント損失43,714千円）となりました。

その他の事業

その他の事業においては、主にフォーサイドフィナンシャルサービス株式会社が金融事業を行っております。

当第3四半期連結累計期間においては、貸付金の回収に注力し、販売管理費用の抑制に努めました。

以上の結果、売上高は3,720千円（前年同期比15.5%増）、セグメント利益は1,967千円（前年同期はセグメント損失17,865千円）となりました。

(2) 財政状態

総資産

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて779,625千円減少し3,213,338千円となりました。主な要因といたしましては、短期貸付金の減少547,779千円及び繰延税金資産の取り崩しによる減少245,825千円等によるものであります。

負債

当第3四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べて66,642千円増加し2,161,580千円となりました。主な要因といたしましては、未払金の増加85,840千円等によるものであります。

純資産

当第3四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べて846,267千円減少し1,051,757千円となりました。主な要因といたしましては、子会社株式の追加取得による資本剰余金の減少553,595千円、親会社株主に帰属する四半期純損失130,631千円を計上したこと等によるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	62,380,000
計	62,380,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月11日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	31,397,704	31,397,704	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	31,397,704	31,397,704		

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	31,397,704	-	1,264,914	-	1,161,120

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2019年6月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 14,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 30,768,900	307,689	-
単元未満株式	普通株式 614,104	-	-
発行済株式総数	31,397,704	-	-
総株主の議決権	-	307,689	-

(注)「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式1,690株が含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数16個が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社フォーサイド	東京都中央区日本橋室町三丁目3番1号	14,700	-	14,700	0.05
計	-	14,700	-	14,700	0.05

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年1月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人八雲による四半期レビューを受けております。

なお、当社監査人は次のとおり交代しております。

第19期 連結会計年度 公認会計士松澤博昭氏、公認会計士向山光浩氏

第20期 第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間 監査法人八雲

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	489,140	490,519
受取手形及び売掛金	508,698	487,186
商品	190,511	173,376
短期貸付金	614,364	66,585
収納代行未収金	757,021	900,709
代位弁済立替金	345,296	499,402
その他	151,475	111,985
貸倒引当金	264,172	385,432
流動資産合計	2,792,336	2,344,333
固定資産		
有形固定資産	40,704	369,507
無形固定資産		
ソフトウェア	80,441	67,114
のれん	240,606	190,929
その他	18	18
無形固定資産	321,065	258,062
投資その他の資産		
投資有価証券	139,020	136,468
長期貸付金	14,197	12,329
投資不動産(純額)	326,749	-
敷金	66,222	55,904
繰延税金資産	245,825	-
長期未収入金	40,225	40,225
その他	63,356	46,864
貸倒引当金	56,738	50,356
投資その他の資産合計	838,857	241,435
固定資産合計	1,200,627	869,005
資産合計	3,992,963	3,213,338
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	186,167	153,907
未払金	784,948	870,788
未払法人税等	58,161	39,704
前受収益	391,023	442,124
短期借入金	60,000	18,487
1年内返済予定の長期借入金	92,176	34,234
事業整理損失引当金	20,606	8,349
債務保証損失引当金	99,230	104,540
賞与引当金	7,166	11,170
その他	182,413	227,234
流動負債合計	1,881,891	1,910,539
固定負債		
長期借入金	206,287	244,116
利息返還損失引当金	6,459	6,625
その他	300	300
固定負債合計	213,046	251,041
負債合計	2,094,938	2,161,580

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,264,914	1,264,914
資本剰余金	2,359,634	1,806,039
利益剰余金	1,821,344	1,944,809
自己株式	3,240	3,312
株主資本合計	1,799,963	1,122,832
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	98,208	95,760
為替換算調整勘定	111	420
その他の包括利益累計額合計	98,319	96,180
新株予約権	25,105	25,105
非支配株主持分	171,275	-
純資産合計	1,898,024	1,051,757
負債純資産合計	3,992,963	3,213,338

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
営業収益		
売上高	2,001,985	2,065,928
その他の営業収益	856,360	951,197
営業収益合計	2,858,345	3,017,125
営業原価		
売上原価	1,509,452	1,418,424
その他の原価	229,681	251,950
営業原価合計	1,739,134	1,670,374
売上総利益	1,119,211	1,346,751
販売費及び一般管理費	1,285,777	1,367,517
営業損失()	166,566	20,765
営業外収益		
受取利息	24,580	5,457
保険解約返戻金	-	8,210
貸倒引当金戻入額	-	6,954
利息返還損失引当金戻入額	494	-
その他	816	5,728
営業外収益合計	25,890	26,351
営業外費用		
支払利息	1,790	2,135
貸倒引当金繰入額	6,968	719
その他	1,348	1,430
営業外費用合計	10,107	4,285
経常利益又は経常損失()	150,783	1,299
特別利益		
関係会社株式売却益	-	7,999
その他	-	61
特別利益合計	-	8,061
特別損失		
減損損失	265,032	-
特別損失合計	265,032	-
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	415,815	9,361
法人税、住民税及び事業税	40,421	43,038
法人税等調整額	18,689	245,825
法人税等合計	21,731	288,863
四半期純損失()	437,546	279,501
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に帰属する当期純損失()	26,461	148,870
親会社株主に帰属する四半期純損失()	464,008	130,631

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
四半期純損失()	437,546	279,501
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	52,704	2,448
為替換算調整勘定	36	308
その他の包括利益合計	52,740	2,139
四半期包括利益	490,287	277,362
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	516,749	128,491
非支配株主に係る四半期包括利益	26,461	148,870

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

当第3四半期連結会計期間より、新たに設立した株式会社マーベラスアーク、フォーサイドメディア株式会社及び布雷克商貿(昆山)有限公司を連結の範囲に含めております。

フォーサイドメディア株式会社については、2019年7月5日付で株式会社FMに社名変更をしております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

保証債務残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
債務保証額(注)	4,864,501千円	5,256,813千円
債務保証損失引当金	99,230千円	104,540千円
差引額	4,765,271千円	5,152,273千円

(注) 賃借人の支払家賃等に対し債務保証を行っております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
減価償却費	86,382千円	42,094千円
のれんの償却額	53,194千円	53,441千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自2018年1月1日至2018年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動に関する事項

当社は、2018年1月19日付で、Eastmoer Strategies Limitedを割当先とする第三者割当増資により2,000,000株増加し、資本金276,000千円及び資本準備金274,000千円増加しております。

また、新株予約権の権利行使による新株式発行により1,622,500株増加し、資本金及び資本準備金がそれぞれ183,000千円増加しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が459,000千円、資本準備金が457,000千円、新株予約権が14,877千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が1,264,914千円、資本準備金が1,161,120千円、新株予約権が25,105千円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自2019年1月1日至2019年9月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額の著しい変動に関する事項

当社は、2019年3月1日において日本賃貸住宅保証機構株式会社の株式を追加取得し、同社を完全子会社としたことに伴い、当社が追加取得した株式の取得原価と、追加取得に伴う非支配株主持分の減少額との差額である553,595千円を資本剰余金より減額しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が1,806,039千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2018年1月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						
	プライズ	不動産関連	投資銀行	コンテンツ	イベント	マスター ライツ	フィン テック関連
売上高							
外部顧客への売上高	1,628,210	853,715	14,166	157,888	136,070	29,952	35,119
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,026	-	-	-	-	-	-
計	1,631,237	853,715	14,166	157,888	136,070	29,952	35,119
セグメント利益又はセ グメント損失()	116,279	4,035	45,274	20,886	2,831	54,570	43,714

(単位:千円)

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	3,222	2,858,345	-	2,858,345
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	3,026	3,026	-
計	3,222	2,861,372	3,026	2,858,345
セグメント利益又はセ グメント損失()	17,865	25,462	141,104	166,566

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業その他を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 141,104千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

固定資産に係る重要な減損損失

「マスターライツ」セグメントにおいて2,737千円、「フィンテック関連」セグメントにおいて262,294千円の減損損失を計上しております。

当第3四半期連結累計期間（自2019年1月1日至2019年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント						
	プライズ	不動産関連	投資銀行	コンテンツ	イベント	マスター ライツ	フィン テック関連
売上高							
外部顧客への売上高	1,693,522	949,879	84,300	131,685	111,645	24,908	17,464
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	1,693,522	949,879	84,300	131,685	111,645	24,908	17,464
セグメント利益又はセ グメント損失()	147,192	10,163	17,377	15,775	12,374	52,334	17,350

(単位：千円)

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	3,720	3,017,125	-	3,017,125
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-
計	3,720	3,017,125	-	3,017,125
セグメント利益又はセ グメント損失()	1,967	124,790	145,556	20,765

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、金融事業その他を含んでおります。

2. セグメント利益又はセグメント損失()の調整額 145,556千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間から、「イベント」について量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

また第1四半期連結会計期間から、「フィンテック関連」については量的な重要性が低下したため「その他」に含めて記載する方法に変更しておりましたが、その後量的な重要性が増したため、第2四半期連結会計期間から報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第3四半期連結累計期間のセグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純損失()	15円04銭	4円16銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	464,008	130,631
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 損失()(千円)	464,008	130,631
普通株式の期中平均株式数(株)	30,855,172	31,382,941

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月11日

株式会社フォーサイド

取締役会 御中

監査法人 八雲

指定社員 公認会計士 齊藤 敦
業務執行社員

指定社員 公認会計士 安藤 竜彦
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フォーサイドの2019年1月1日から2019年12月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2019年7月1日から2019年9月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2019年1月1日から2019年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フォーサイド及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の2018年12月31日をもって終了した前連結会計年度の第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して2018年11月14日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して2019年3月28日付けで無限定適正意見を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。